

【教員寄稿】

大学へようこそ！(Bem-vindos à universidade!)

Helena H. TOIDA

新入生の皆さん！ 大学へようこそ！ これから始まる夢や希望でいっぱいの大学生活を前に、基本的なことについて少し述べたいと思います。

大学とはどんなところで、どんな勉強をするのでしょうか。答えは様々ですが、これまでの小学、中学、高校での学びとはかなり異なっていることを認識しましょう。なにしろ、「学生」という身分でいられる最後のステージであり、社会人になる前のとても大切な時間ですから。

受験を乗り越えて、大学生になって、やっと一息ついて、楽しもうと思うのは理解できますが、外国語を勉強するためには、そんな悠長なことは言ってもらえません。

まず、大学、そしてポルトガル語学科がどのようなところなのかを知るために、以下を参照してください。

① 大学は自分が動かなければ、何も動かない。

自分から積極的に動かないと、何も機能しないのが大学というところです。

また自分自身の基準を見出す訓練をするところでもあります。

自分の前にあるのは、必修科目が入っている最低限の時間割のみ。他にどのような科目（全学共通や選択、また今後進みたい研究コースに必要なものを視野に入れて）を履修したいか、時間割を基に決めていく。その際、すべてコンピューター入力なので、「確定」ボタンを押さないと、履修登録は完了しないのでご注意ください！

② 履修要覧を熟読

入学と同時に配布される「履修要覧」は分厚くて重たいが、これをきちんと読み、理解すること。履修については先輩に聞くのもよいが、毎年必ず変更があるので、自分で理解しておくことが何よりも大事。細かいことが重要になるので、面倒と思わず要所は必ず読む。

③ 基礎科目は年次通りに履修→ひたすら覚える

1年次（基礎ポルトガル語 I）は、文法、会話作文を中心に構成されており、すでにこの初級レベルから「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能を習得するための内容が網羅されている。2年次（基礎ポルトガル語 II）は、レベルアップした文法や会話作文、講読から構成されている。

言語習得には日々の積み重ねが大事であり、テスト前の「一夜漬け」は無意味である。地道に勉強すれば、再履修になることはないのです。毎日の「必ず予習、少しでも復習」を心がけよう。

アドバイス

その①：辞書や本に書いてあることがすべてではない。

その②：わからないことや悩みがあったら、すぐに教員に聞くなり、相談するなりして解消しよう。テスト直前や学期末まで放っておくと、大変なことになる。

- ④ 留学を考えているなら、1年次のGPA（成績評価値）が重要
3年次の春学期から留学を考えているなら、1年次修了時点でのGPAが2.8以上でないと応募できないので、最初の1年間は特にしっかりと勉強すること。ただし、GPAのためだけに「楽勝」と言われる履修科目を選ぶと、その後のコース選択などに不都合が出て大学での学び全体に支障が出ることになりかねない。これでは本末転倒になるので注意すること。

- ⑤ 3・4年次では1・2年次で学習したことの応用およびゼミ：

覚える→**考える**に移行する時期

この年次では、全てポルトガル語で行われる講義もあり、大半は学生も全てポルトガル語で発表することになる。1・2年次で学んだことがどれくらい活かせるかを試す時期でもあり、興味のある分野を選んで履修することが望ましい。

3・4年次からゼミを履修できる。ゼミと講義の違いを簡潔に述べると、ゼミは学生が授業を進めるものであり、学生同士とする議論の時間である。どちらかというとな受動的な講義に対し、ゼミは能動的な授業である。

さて、初期のステップや学科について少し理解できたでしょうか。続いて大学生活について少し述べましょう。私達教員がいつも願うことは、学生に有意義な生活をおくってほしいということです。そのためには、好奇心のアンテナを張り巡らし、興味あることを発見することでモチベーションを上げていくことが大切だと思います。そのなかで感性を磨き自己を高め、人との出会いから学び、将来へのより良い道を見極めることができるのではないのでしょうか。

留学して外の世界を知ることは大事ですが、内面への旅も同じく大事です。人は自己を見つめて初めて外側に向かって真の目を開くのではないのでしょうか。自分の中に、また自分の国にある様々な現実を直視し、受け止め、受け入れようとする心構えが自分を鍛えてくれるものです。

外国語およびその文化を勉強することは、それらを通して自国語を、自国の文化を再認識することです。その比較のプロセスの中に、面白い発見が必ずあるはずです。

大学の教員は、学生自身がレールを敷いてその上を走る手助けをします。材料を与え、説明をします。しかし、列車を走らせるのは学生自身です。このことは忘れないようにしてください。有意義な大学生活を送れるよう、願っています。